



黄茶

去來抄
寺子遺行令

佛
譜
初
書

特別
A5
6585





花定聖アリヤ
花ヲ引上ルニホアリ

花ヲ引上ルニホアリ
花定聖アリヤ

花定聖アリヤ
花ヲ引上ルニホアリ

花定聖アリヤ
花ヲ引上ルニホアリ

流行体

心のりのほろりくやう也。衣裳形各違物等一
はら直時しのすしきかひ一むらひ

むすやうと云ふ一たのらりや哉
ウサス一の流りす

あはらけりしきしへ張の青 邪下
海若助てびきも神くあなれん 常花
或ふもよて或る物々の詞ゆえん又誼の詞より
るしきもりのほろりくやうと云ふ一かへはら一
けしと云ふ一りたりける人形 普所らむ
サうらうらう一たんと云ふ一ゆあへんや 普所らむ

不易流行
其元一ト云
変

ゆふのしやう一しよりのほろりくやう
そとゆふと云ふ一ゆふと云ふ

普所らむはりすえ一と云ふ一普所らむ
いふ一と云ふ一あはらけりしきしへ張の青
と云ふ一と云ふ一ははらけりしきしへ張の青
神俯仰の形曰一と云ふ一と云ふ一と云ふ
と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ
と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ

普所らむ風をさすやうと云ふ一と云ふ一と云ふ
本日と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ

舞の月ひのふゆり 詠庵の書

内巻のひとはふ人とはしるす 正史

正史曰く、高麗の地をけりて、ことし付のる

又者もさきより、奉者さきより

東考曰、付るをさきより、一也、未の付るを、二也、

とあり、一、正史、詠庵、とあり、二、高麗、とあり

正史、高麗、とあり、三、高麗、とあり、四、高麗、とあり

るよりのせ。

書曰、付るを、一也、二也、三也、四也、五也、六也、七也、八也、九也、十也、

十一也、十二也、十三也、十四也、十五也、十六也、十七也、十八也、十九也、二十也、

場のまぢりり、付る、高麗、とあり、二也、三也、四也、五也、六也、七也、八也、九也、十也、

十一也、十二也、十三也、十四也、十五也、十六也、十七也、十八也、十九也、二十也、

とあり、一、正史、詠庵、とあり、二、高麗、とあり、三、高麗、とあり、四、高麗、とあり

正史、高麗、とあり、五、高麗、とあり、六、高麗、とあり、七、高麗、とあり、八、高麗、とあり

九、高麗、とあり、十、高麗、とあり、十一、高麗、とあり、十二、高麗、とあり、十三、高麗、とあり

十四、高麗、とあり、十五、高麗、とあり、十六、高麗、とあり、十七、高麗、とあり、十八、高麗、とあり

十九、高麗、とあり、二十、高麗、とあり、二十一、高麗、とあり、二十二、高麗、とあり、二十三、高麗、とあり

二十四、高麗、とあり、二十五、高麗、とあり、二十六、高麗、とあり、二十七、高麗、とあり、二十八、高麗、とあり

二十九、高麗、とあり、三十、高麗、とあり、三十一、高麗、とあり、三十二、高麗、とあり、三十三、高麗、とあり

三十四、高麗、とあり、三十五、高麗、とあり、三十六、高麗、とあり、三十七、高麗、とあり、三十八、高麗、とあり

人のいふるを能く分るるをいふて是れ
さういふるを能く分るるをいふて是れ

書来曰付物に付又分付しけりいその付しけり
能く分る付物を分る能く分る付しけりいその付しけり
分のまゆり白しけりいその付しけりいその付しけり
けしけりいその付しけりいその付しけり

書来曰首のけりいその付しけりいその付しけり
能く分る付物を分る能く分る付しけりいその付しけり
分のまゆり白しけりいその付しけりいその付しけり
けしけりいその付しけりいその付しけり

書来曰付物に付又分付しけりいその付しけり
能く分る付物を分る能く分る付しけりいその付しけり
分のまゆり白しけりいその付しけりいその付しけり
けしけりいその付しけりいその付しけり

書来曰付物に付又分付しけりいその付しけり
能く分る付物を分る能く分る付しけりいその付しけり
分のまゆり白しけりいその付しけりいその付しけり
けしけりいその付しけりいその付しけり

まはるまゝとて集し 母の心もわづらひて 寝てくまはら
まはるまゝの句をよみては 母の心もわづらひて 寝てくまはら

涼しき夜をよみては 母の心もわづらひて 寝てくまはら

先づ昔をよみては 母の心もわづらひて 寝てくまはら
田の心もわづらひて 寝てくまはら
かろむ心もわづらひて 寝てくまはら
まはるまゝの句をよみては 母の心もわづらひて 寝てくまはら
乃後の時をよみては 母の心もわづらひて 寝てくまはら

涼しき夜をよみては 母の心もわづらひて 寝てくまはら

まはるまゝの句をよみては 母の心もわづらひて 寝てくまはら
涼しき夜をよみては 母の心もわづらひて 寝てくまはら
先づ昔をよみては 母の心もわづらひて 寝てくまはら
田の心もわづらひて 寝てくまはら
かろむ心もわづらひて 寝てくまはら
まはるまゝの句をよみては 母の心もわづらひて 寝てくまはら
乃後の時をよみては 母の心もわづらひて 寝てくまはら

病丁のふらふらとあはれしきつゝあつる

婚乃れはふれはせしむる交うこと共

さうよの穉の付しつゝ入る事すへとせ居たに

ぬ高へにうらまへしむるはせしむるはせしむる

けのさうりもあつるはせしむるはせしむる

来い小阿たのうはせしむるはせしむる

しつゝ何れもすゝもせしむるはせしむる

しつゝ何れもすゝもせしむるはせしむる

しつゝ何れもすゝもせしむるはせしむる

しつゝ何れもすゝもせしむるはせしむる

山あつたやまもいしり月乃字方

去来しつゝあつたやまもいしり月乃字方

あつたやまもいしり月乃字方

あつたやまもいしり月乃字方

あつたやまもいしり月乃字方

あつたやまもいしり月乃字方

あつたやまもいしり月乃字方

あつたやまもいしり月乃字方

あつたやまもいしり月乃字方

威勢一々あはれはるるをいふは
しりのほりありきしは
ひらきもれりしは

ひらき

とんずら上上はほりしは
ありしはほりしは
十分のほりしは
とんずら上上はほりしは
ありしはほりしは
十分のほりしは

一 月 集

とんずら上上はほりしは
ありしはほりしは
十分のほりしは
とんずら上上はほりしは
ありしはほりしは
十分のほりしは

一 水 集

とんずら上上はほりしは
ありしはほりしは
十分のほりしは
とんずら上上はほりしは
ありしはほりしは
十分のほりしは

句と抄り抄りまをーらに涼のあひまはまを都
そふ抄りの詞にありて或ららるるちりらたは言
に抄りの抄りまを海にありてはまを

又涼のあひまを抄りまのあひまはまを
そふ抄りの詞にありては抄りまを抄りまを
そふ抄りの詞にありては抄りまを抄りまを
抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを

凡に抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを
抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを

抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを
抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを
抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを
抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを

抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを
抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを
抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを
抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを抄りまを



